

平成23・24年度 金融教育研究校  
**金融教育研究実践報告**

新潟県立長岡高等学校  
地歴公民科教諭 小川 真一

1

## 1 長岡高等学校について

- 創設 明治5(1872)年、長岡藩「米百俵」の精神を受け継いだ長岡洋学校に始まる
- 校風 「和而不同」「剛健質僕」「豪爽快活」
- 生徒数 949人(平成25年5月1日現在)  
普通科6クラス、理数科2クラス、計24クラス
- 進路状況 大学進学率74.5%
- 平成25年度 文科省より「SSH」の指定(5年間)

2

## 2 研究主題の設定

### 【金融教育の内容】

- A. 生活設計・家計管理に関する分野
- B. 経済や金融のしくみに関する分野
- C. 消費生活・金融トラブル防止に関する分野
- D. キャリア教育に関する分野  
(金融教育プログラム 金融広報中央委員会)



本校の生徒が最も必要としていて、本校として取り組むべき分野はどれか？

3

### 【生徒の状況(進路決定までの取り組み)】

- 生徒の大部分は4年制大学進学を希望
- 大学、学部、学科研究は行っている



大学卒業後の自分の将来像は、あまりイメージできていないのではないか？

大学卒業後の社会への認識(特に企業について)、自分に求められる役割への認識は十分か？

4

### 【研究実践方針】

- 通常の授業の中で取り組む(教科単位での取り組みが中心)
- 通常の授業内容との関連性、連続性を重視する(生徒に高い意識を持たせて実践していきたい)
- 今後も継続して取り組むことが可能な内容で行う(授業者が変わっても取り組める)



### 【本校が取り組む分野】

- D. キャリア教育に関する分野  
→「働く意義と職業選択」「生きる意欲と活力」「社会への感謝と貢献」

5

### 【研究主題】

生徒が自らの進路実現に向けて、各教科の教授内容を生かした授業展開により、主体的に判断し、決定する力を育成する。

#### (1)地歴公民科

現代社会における産業形態や雇用形態の変化を認識し、グローバル化社会において求められている能力や技能を考察し、自らの特性や希望とマッチした進路の実現方法や、その経済的側面を探る。

#### (2)家庭科

高校生に至るまでの学習や家庭生活におけるライフスタイルを、経済的側面から振り返るとともに、卒業後のあり方についても考察する。

#### (3)総合的な学習の時間

自己を客観的に理解し、正しい職業観を育成し、自分の希望を実現するための具体的な進路選択を図る。

6

### 3 平成23年度の活動

#### 【地歴公民科】

- ・ 現代社会(経済分野)の授業を通して、産業形態、雇用形態の変化を学習する
- ・ 各企業で発行しているCSR報告書を分析し、企業の社会貢献度を調べる

#### 【家庭基礎】

- ・ 金融広報中央委員会発行「これであなともひとり立ち」を使用

#### 【総合学習】

- ・ 1年次に「職業研究」、2年次に「大学・学部学科研究」、3年次により細かな「学部学科研究」を行う

7

### 4 平成23年度 活動の実際 (地歴公民科)

#### (1) 学習対象・学習単元

1年次(8クラス 320名)

「現代社会」(2単位)

現代の市場と企業のはたらき

#### (2) 学習題材

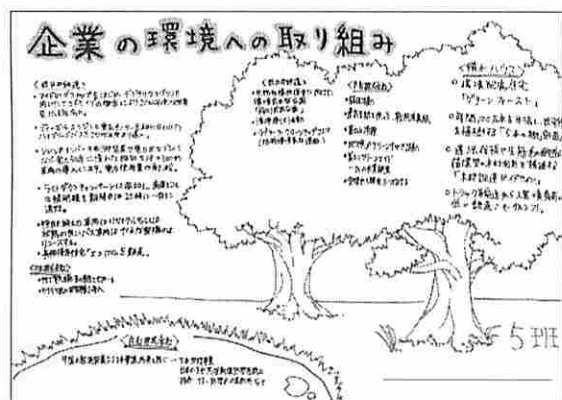
企業の社会的責任(CSR)の分析

#### (3) 授業展開

別紙資料参照

8

#### (4) プレゼン用ポスター



9

#### (5) 生徒の自己評価

#### 【CSR調べをまとめるにあたって】

1: 大変うまくいった	15.8%
2: うまくいった	67.4%
3: 少しうまくいかなかった	16.2%
4: うまくいかなかった	0.6%

10

#### 【本来業務に関するCSR活動について理解できましたか？】

1: よく理解できた	33.0%
2: 理解できた	61.5%
3: あまり理解できなかった	5.5%
4: 理解できなかった	0%

11

#### 【本来業務以外のCSR活動(メセナ・フィランソピーなど)について理解できましたか？】

1: よく理解できた	30.8%
2: 理解できた	59.9%
3: あまり理解できなかった	8.9%
4: 理解できなかった	0.4%

12

### 【ステークホルダーについて理解できましたか？】

1:よく理解できた	12.7%
2:理解できた	54.1%
3:あまり理解できなかった	30.5%
4:理解できなかった	2.7%

13

### 【コンプライアンスについて理解できましたか？】

1:よく理解できた	14.0%
2:理解できた	63.7%
3:あまり理解できなかった	20.6%
4:理解できなかった	1.7%

14

### 【授業を通して、企業に対するイメージが変わった点がありますか？】

- ・以前まではただ製品を作っているイメージしかなかったが、清掃活動や義援金、海外の貧しい国々への協力などを行っており、イメージアップにつながった。
- ・本来業務である商品の提供のみを重視していると思っていたが、それ以外の役割や社会貢献を行っていると分かり、さまざまな視点から企業を見るようになりました。
- ・どの企業も開発した技術を社会のために使おうとしていて、良い印象を持った。
- ・本来業務による幸せ貢献だけでなく、本来業務以外による幸せ貢献にも、同じくらい力を入れている企業が多く、ステークホルダーへの意識の高さに好感を持った。

15

### 【「社会に認められる企業」とはどのような企業だと思いますか？】

- ・本来業務だけでなく、環境対策や地域社会への貢献を行っている企業。
- ・業務が外部から見て信頼でき、透明感がある企業。
- ・東日本大震災など大災害が起きたとき、寄付をするだけでなく、日常的に深く社会に関わった貢献活動ができる企業。
- ・社会の一員として他者に迷惑をかけないことを当然とし、世の中の役に立てるような創造的な活動を行っている企業。
- ・お客さんにも従業員にも環境にも全力で配慮できる企業。

16

### 【自分の将来の就職にどのようなところが役に立ちそうですか？】

- ・本来業務を主に見て決めるが、各企業の特徴ある活動なども参考にしたい。企業に対する新しい視点が増えたので、今までとは少し違った職業選択ができるのではないかなと思う。
- ・各企業のCSRを知ることで、自分がどのようなことで社会貢献できるのかを知り、自分がやりたいことを見つけることができると思う。
- ・利益だけを目的とするのではなく、ちゃんと社会に貢献しているかを大切に会社を選んでいきたいと思う。そのような会社は自然と利益もついてくると思う。
- ・自分が将来働いたときは、ただ自分や会社の利益を得るという意識で働くのではなく、ちゃんとコンプライアンスを意識して働きたい。

17

## 5 平成23年度を取組を振り返って

- ・CSRについて、基礎的な知識の定着が不十分。
- ・利潤追求の企業活動＝悪い企業という誤った認識を持たせてしまった可能性あり。
- ・生徒に提示する各企業のCSRレポートの精選が必要。

18

## 6 平成24年度に向けて

- 今日CSRが求められるようになった背景と内容を体系的に学習し、その知識を生かして実際に各企業のCSR活動を調べるといふ授業を行う。
- メセナ、フィランソपीーなどは企業の付随的な活動ではなく、企業価値を高める活動であり、最終的には利益に結びついていくことを理解させる。
- 利潤を生み出す企業活動は、見方を変えれば社会から必要とされる財・サービスの生産である。これも社会貢献の要素の一つであり、メセナ、フィランソपीーとともにCSRに欠かせない要素であることを理解させる。
- 教員側で用意するCSRレポートは事前に内容を確認し、内容が適切に記載されているものを生徒に提示する。

19

## 7 平成24年度 活動の実際 (地歴公民科)

### (1) 学習対象・学習単元

3年次(4クラス 120名)

「政治経済」(3単位)

企業と市場機構

### (2) 学習題材

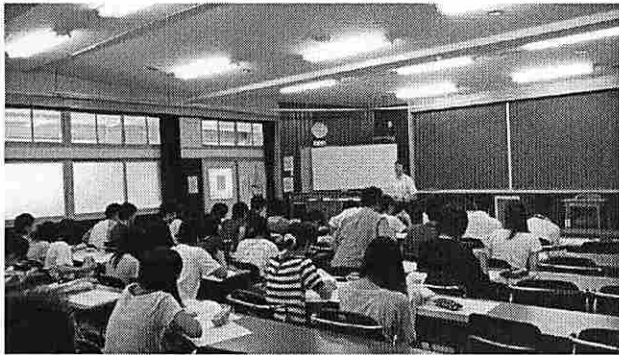
企業の不祥事と社会的責任(CSR)の必要性

### (3) 授業展開

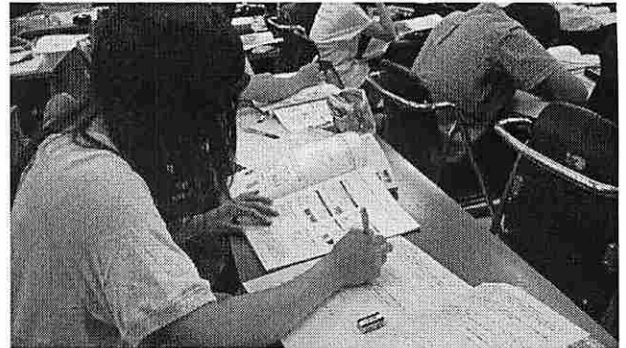
別紙資料参照

20

### (4) 授業の様子



21



22

### (5) ワークシート記入例

#### 【「CSR」を学んでみて新たに分かった点、企業に対する認識で変わった点】

- 企業はモノを売り、利潤を追求することが仕事だが、地域の中にある限り、周りと協力することを重視しなければならないことが分かった。
- ニュースを聞いていると企業の不正を耳にし、企業は利益の追求ばかりして社会貢献などにはあまり目を向けていないと思っていたが、将来への継続性のため、社会や人々に様々な貢献活動をしていることが分かった。
- 企業は学生の自分には商品の生産やサービス以外関係がないと思っていたが、今回調べてみると、どの企業も私たちや地域に密着していることが分かり、企業に対して関心を持つことができた。

23

#### 【あなたが社会に出て働くようになった時に、どのようなことを意識して働きたいですか？】

- 常に「良き企業市民」としての役割を担っていることを意識し、自分が不正をしないことは勿論、周囲に不正がないことについても気を配る。
- 会社のCSRを守り、不正をおかさないように、また見逃さないように気をつけたい。そしてCSRを守ることが結局は企業の利益につながることを信じて働きたい。
- 日本銀行の橋本さんが話してくださったように、会社に染まるのではなく、企業に貢献しつつも「第三者の目」を持つことを意識して働きたい。

24

## 8 平成24年度の取組を振り返って

- 企業の不祥事や不正に触れたことで、CSRの重要性を認識することができた。
- CSRを企業活動の中心と捉え、多岐にわたる企業活動の中に、商品生産による利潤獲得や、株主への利益還元、芸術支援活動などが並んでいるという意識を持たせるように配慮した。
- 利潤を求める企業活動もCSRの一部であることを協調しようとしたが、生徒のコメントを見るとそこまでの理解は得られていないように思われる。
- 事前にCSRレポートの内容を確認し、生徒が理解しやすく、授業展開に合致したものを選んだ。

25

## 9 まとめ

- 通常授業との関連性→ある程度保てた。
- ポスター形式での発表→学習効果は高いが、ある程度の基礎知識が前提。
- 時間的な制約→授業内容の精選、再構築が必要。
- CSRをより理解するために→実際に企業に勤務している人からCSRの取組状況を聞くことが有効。
- 生徒は高校卒業後の自己のあり方を長期間にわたって見つめることとなり、進路決定の際の新たな指針を得ることができたのではないかと。

26